

※この報告書の〈受講者の声〉までが、なごや環境大学のウェブサイト上に掲載されます。

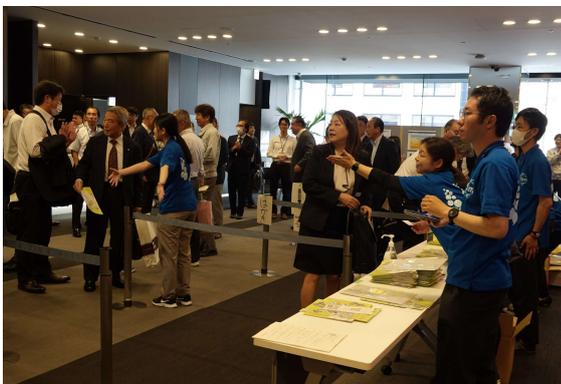
様式2  
(2024年度)

## 事業実績報告書

講座番号	C-09	講座名	第33回環境フォーラム
記載日	2024/7/4	団体名・企業名	株式会社エステム

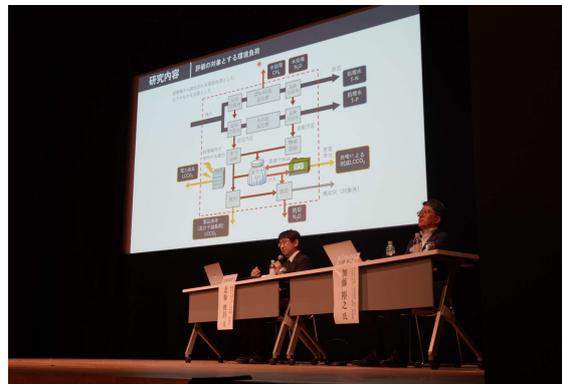
### 〈講座全体の概要〉(300字程度)

弊社では、毎年環境フォーラムを主催しております。昨年に引き続き、コロナ感染対策を十分に行った上でのオフラインとオンラインのハイブリット開催となりました。毎年環境に関する様々なテーマを取り上げていますが、今回は「排水処理からの資源化・エネルギー化」がメインテーマでした。排水処理施設では、汚泥等廃棄物の処理に大きなコストを必要とすることが課題です。そんな排水処理から資源を取り出してエネルギーをつくり出す技術や取り組みについて、東北工業大学工学部都市マネジメント学科准教授の北條俊昌様、東京大学大学院都市工学専攻下水道システムイノベーション研究室特任准教授の加藤裕之様を講師として呼びまして講演を行っていただきました。



※写真1の説明

受付案内の様子



※写真2の説明

講師お二方の質疑応答の様子

### 〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

今回の環境フォーラムは昨年に引き続き会場とオンラインのハイブリット開催となりました。第一回講座では、北條先生からは下水汚泥の消化によるガスの利用についての普及と発生効率化について、加藤先生からは下水汚泥の農業肥料への利用と普及について講演いただきました。様々な分野でも、取り組みが進められている資源の有効利用について、排水処理分野の現状や課題を講師の方々に分かりやすく説明して頂き良いフォーラムになったと思います。第二回講座の環境フォーラム事後勉強会では、参加者と実際に汚泥等から微生物燃料電池を作成し、電圧測定や発光ダイオードの点灯実験を行いました。数秒の間でしたが発光ダイオードが点灯した時、会場では感嘆の声も聞こえてきました。

今回も環境フォーラムを無事に開催することができ、心から嬉しく思います。

### 〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

・日本は水や木材以外の資源が少ない国なので、資源循環の取組等が知りたいです。そういった意味で、今回のテーマはとても面白かったです。・御社の環境フォーラムにて毎年学ばせていただいております。また、下水処理からのエネルギーや資源循環ということで、御社での実際に取り組みの際の知見に関心があります。本日も勉強させていただきました。ありがとうございます。・今回は原点に帰るようなテーマで水処理現場でのことを思い出しました。毎年テーマにバリエーションがあるので面白く感じます。・本日はありがとうございました。排水処理からエネルギーの循環をし、それを普及していくためには、どのようなことが大切であるのか考えるきっかけとなり、非常に勉強になりました。